

月光の女 (1940)

THE LETTER

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマン스

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 95分

初公開日 1950/12/14

公開情報 セントラル

【解説】

S・モームの名作戯曲『手紙』の映画化。マレーのゴム園主ロバート（マーシャル）の妻レスリー（デイヴィス）は、ハモンド（スティーヴンソン）という男を殺害。彼女は正当防衛を主張。夫も弁護士もそれを信じたが、弁護士の助手オン・チャイが、事件当日のハモンド宛のレスリーの手紙の存在をほのめかす。所有者はハモンドの現地人の妻（ソンドーガード）で1万ドルで売り渡すと言う。ロバートは全財産を擲って手紙を入手し、レスリーの判決も無罪に。彼は、彼女とハモンドの間の愛情を手紙の内容で知ったが、なおレスリーを愛しており、マレーを去って新生活に入ろうと誘う。が、未だ愛人への想いを断ちきれないでいるレスリーは夫を避けて出た庭先で、ハモンドの妻と召使いの憎悪の刃に絶命した。その瞬間、雲の合間から眩い月光が射すのだった。むせる南国のムードを濡れたカメラが滑らかに捉え、ワイラーは、デイヴィスとスティーヴンソンの愛の形容し難いテンションを見事に映像にしている。ソンドーガードの存在感を煽るような原始的なイメージ作りが、彼女の不気味さをいや増させる。81年に「手紙」としてTVムービー化された。

【クレジット】

| | | |
|----|----------------|------------------|
| 監督 | ウィリアム・ワイラー | William Wyler |
| 製作 | ハル・B・ウォリス | Hal B. Wallis |
| 原作 | サマセット・モーム | Somerset Maugham |
| 脚本 | ハワード・コッチ | Howard Koch |
| 撮影 | トニー・ゴードイオ | Tony Gaudio |
| 音楽 | マックス・スタイナー | Max Steiner |
| 出演 | ベティ・デイヴィス | Bette Davis |
| | ハーバート・マーシャル | Herbert Marshall |
| | ジェームズ・スティーヴンソン | James Stephenson |
| | フリーダ・イネスコート | Frieda Inescort |
| | ゲイル・ソンドーガード | Gale Sondergaard |
| | エリザベス・アール | Elizabeth Earl |